

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3874000353
法人名	社会福祉法人 御荘福祉施設協会
事業所名	グループホーム みしょうの里
所在地	愛媛県南宇和郡愛南町御荘平城2020番地
自己評価作成日	平成26年6月20日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年7月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

民家改修型のグループホームのため、今までの生活の延長線上にあり、やすらぎと安心感のある暮らしが送れていると思います。ホームの裏には季節ごとの野菜を植え、利用者の居室から生育過程を眺めることができたり、一緒に収穫したり等、楽しみがあります。一般家庭の広さのため、居住スペースが狭く、介護するうえで大変な面も多いですが、職員皆で協力し合い元気に明るく頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

近所のお宅には、法人全体の機関紙「自在」を毎月配っており、又、事業所の畑で採れたスイカをおすそ分けすることもある。法人施設で毎月行われる地域との交流会には、利用者も参加して一緒にカラオケ等して楽しんでいる。近隣の保育園の2.3歳児や年長児が毎月来てくれており、歌や踊りを見せてくれたり、利用者の肩たたきをしてくれて、利用者は園児とのふれ合いを楽しみにされている。

日々の介護記録には、青ペンで介護計画の支援内容を記載しており、支援状況がわかりやすいよう工夫されている。新聞を活用して、利用者の興味のあるような記事を見つけて情報提供したり、個々のお若い頃のエピソードを聞く等しながら、思いや意向の把握に努めておられる。

2日に1回入浴できるよう支援しており、個々の希望に合わせた湯温に気を付けておられる。毎日入浴したいという希望にも応じて支援されている。車いすを使用する方には、浴槽の中に踏み台を入れ、湯船の中でも姿勢を安定させて温まれるよう工夫されている。入浴剤を入れて、草津節を歌う等、温泉気分を味わえるような工夫もされている。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームみしょうの里

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

北原恵理

評価完了日

平成26年6月20日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念を基に利用者一人ひとりにあったその人らしい生活を送っていただけるような支援を心掛けているが、職員中心の考えや動きになっていることもあり、全員参加の職員会議のなかで再認識している。	
			(外部評価) 「日々の暮らしの中で語り合い、その人らしい生活の支援」という事業所の理念のもと、職員は、利用者やゆつくりかかわることに取り組まれており、職員会議でケアを振り返る際には理念に立ち戻り確認されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 月一回のはまゆう乳幼児保育所や御荘保育所との交流を心待ちにしている。地域の老人クラブとのカラオケ交流会や各行事(ソーメン流し、花火見物、地方祭、クリスマス会)で地域の方やご家族と一緒に交流し、楽しまれている。	
			(外部評価) 近所のお宅には、法人全体の機関紙「自在」を毎月配っており、又、事業所の畑で採れたスイカをおすそ分けすることもある。法人施設で毎月行われる地域との交流会には、利用者も参加して一緒にカラオケ等して楽しまれている。近隣の保育園の2.3歳児や年長児が毎月来てくれており、歌や踊りを見せてくれたり、利用者の肩たたきをしてくれて、利用者は園児とのふれ合いを楽しみにされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議のなかで、愛南町地域包括支援センターより2名、社会福祉協議会より1名の出席があり、認知症の症状や支援方法等話していただきました。その際には、近所の方にも声をかけ、数名の方が来てくださり、一緒に学び、理解を深めました。職員もキャラバンサポーターの一員となり、近所で困っているお年寄りに声をかける等しています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 二ヶ月毎の運営推進会議で利用者の紹介や状態、各行事の反省や報告、日常の活動内容、行事予定等報告している。話し合いのなかで感想、質問や意見をいただいて参考にし、サービスの向上に繋げている。</p> <p>(外部評価) 会議時には、毎回、地域の方が司会進行してくれている。事業所からは、会議メンバーに利用者を知ってもらえるよう、利用者個々の紹介をされている。又、会議時の話し合いをきっかけに、事業所独自の「行方不明時捜索マニュアル」を作成した際には、地域の方の連絡先の記載や訓練時の協力をお願いされた。ご家族は、一年を通して同じ方が来てくれるようになっている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 昨年の町主催の「あいなん生き生き推進大会」の実行委員となり、地域包括支援センター職員や町内の他グループホーム職員との交流会を復活させ、二ヶ月に一回、話し合いをもち交流している。また、地域包括支援センターより研修の案内等していただき参加している。</p> <p>(外部評価) 休止していた町内のグループホーム交流会を昨年12月から再開されており、地域包括支援センターも加わり、「スマイルプロデューサーズ」と名付けて活動されている。来月は、「感染症について」勉強する予定となっている。運営推進会議時と併せて、地域包括支援センター、社協の方の協力をいただき、「認知症サポーター養成講座」を開講され、地域の方にも案内して一緒に勉強された。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 月一回の職員会議のなかで身体拘束高齢者虐待防止について資料や事例を基に話し合いを行っている。日々のケアのなかで課題に直面した場合は職員全員で話し合い、周知し、拘束しないケアに取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 職員は、法人内の研修や勉強会、南予地区研修会も出席して身体拘束について学んでおられる。玄関にはセンサーを設置しており、人の出入りが音でわかるようになっている。利用者をせかすような言葉かけをしないよう、気を付けておられる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 月一回の身体拘束高齢者虐待防止について、施設長に出席してもらい、職員全員で学ぶ機会を設けている。拘束、虐待、不適切ケアが行われていないか再確認している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 南予地区研修会や母体特養での職員研修会に参加し学ぶ機会を設けている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用契約に関する説明書や改定等の文章を見ていただき、疑問点や不安、心配な点はないかお聞きしながら説明を行い理解と納得を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者の方には日頃から不安や心配なこと、嫌なことはないか伺ったり、表情等から思いを汲み取れるよう努めている。ご家族へは面会や電話の際に要望や意見を伺うが発言は少ない。玄関先へ意見箱を設置し気軽に何でも書いていただけるよう声をかけている。 (外部評価) ご家族は月に一度はかならず来訪されており、職員は、その際に利用者の状態や運営推進会議の内容等を報告されている。入居間もない方のご家族には、「お墓参りに出かけていいですよ」等と話し、利用者とお話する時間を持つよう提案されている。	評価機関から送付する家族アンケート集計表やコメントの抜粋表をもとにして、職員でご家族の心情を探ったり、ご家族とお話する際のきっかけにしようか。サービスを利用する側であるご家族から具体的に意見や要望が聞けるよう、働きかけに工夫を重ねていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月一回の職員会議に施設長や担当事務職員も同席し意見や提案がある時はその都度話し合っている。また、人事考課のなかで自由意見や感想等書いてもらい、全てではないが反映させるよう努めている。	
			(外部評価) 法人内研修や南予グループホーム連絡会の研修等、職員は勉強する機会があり、研修後は、報告書を作成して、職員会議時に発表して周知されている。職員会は、テーマを決めてすべての職員参加で行っており、会議時に話し合っ て決めた内容は、共有して取り組まれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 人事考課の活用や個別の面談等を行い、職員の意見を聞き、把握している。また、意見を聞き、状況を把握している。また、意見等を検討し、雇用募集していただいたり、備品や修繕等整備して働きやすい環境に努めている。	
			(外部評価)	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 母体特養での職員研修会や南予地区研修会、町主催の研修会等に参加し、知識や技術を学び、資質の向上に努めている。	
			(外部評価)	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 母体特養発刊の機関誌を配布したり、広報誌が送られてきている。また二ヶ月に一度の町内グループホームや地域包括支援センター職員との交流会(略称:スマプロ会)を開催し、お互いの情報、意見交換で交流し、サービスの質向上に取り組んでいる。	
			(外部評価)	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前に自宅や他施設を訪問し、利用者本人とご家族から話を伺う機会を設けている利用者の状態や様子、ご家族の思い等、職員全員に報告している。不安や心配な様子であれば2~3時間ほど、ホームの雰囲気を楽しんでいただき安心へと繋げている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前にご家族からの不安や心配事や要望等を伺い、ご家族の思いに真摯に対応し、今後も気楽に何でも相談してもらえるよう信頼関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時、ご本人やご家族の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援の提供を行い、必要なサービスに繋げるよう支援を行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 人生の先輩として教わることも多く、感謝の気持ちを言葉に表し、敬意を払い、暮らしを共にするなかで信頼関係が築けるよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族と情報交換を行いながら、ご家族の思いを踏まえ、利用者本人との良好な関係や絆を大切に、また、職員もその思いに応えられるよう信頼関係に努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 知人や親戚、兄弟の方が時折尋ねてこられ、お部屋でゆっくり過ごしていただいている。永年住み慣れた地域や自宅周辺をドライブしたり、大切にしてきた馴染みの人との関係や場所が途切れないよう支援している。 (外部評価) 毎月の病院受診時には、ご家族と墓参りしたり、自宅に立ち寄ることもある。友人に誘われ、お花見に出かける方もいる。利用者がよく話すことを話題にしてお話をさらに引き出したり、出かけてみるきっかけを作ったりされている。波のお話をよくする方には、「海へ行ってみませんか？」と誘ってみるようなこともある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価)	
			利用者一人ひとりの性格や特徴を把握し、居間で集い楽しく過ごせるよう支援している。ティータイムや余暇時には、職員も一緒に会話に入り、利用者同士の橋渡しとなり交流が持てるよう配慮している。同郷同士の方もおり、昔話をしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価)	
			死亡や他施設に移り退所された方のご家族へ連絡をとり、近況を伺っている。近くのスーパー等で会った時はお互いに気軽に声をかけたりして関係性を大切にしている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価)	
			利用者の言葉だけでなく、表情や行動、態度からも思いや気持ちを察し、多くの声かけを行っている。	
			(外部評価)	
			日々の介護記録には、青ペンで介護計画の支援内容を記載しており、支援状況がわかりやすいよう工夫されている。新聞を活用して、利用者の興味のあるような記事を見つけて情報提供したり、個々のお若い頃のエピソードを聞く等しながら、思いや意向の把握に努めておられる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価)	
			利用されるまでに自宅等を訪問したりホームへ来ていただいて、ご本人やご家族からこれまでの生活歴や環境等聞き取れるようにしている。またフェイスシートやセンター方式を活用し職員間で情報を共有できるようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価)	
			利用者一人ひとりの心身の状態や生活リズムを把握し、得意なこと、出来ること等お手伝いをさせていただき、喜びや生きがいを持ってその人らしい生活が送れるよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	面会や電話等でご家族からの希望や要望をお聞きしたり一緒にカンファレンスに参加していただき介護計画に反映できるように各職種から意見を聞く等して作成している。また、毎月モニタリングを行っている。	
			(外部評価)		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	個別のファイルにサービス内容の実践や評価等を記録し、日々の様子について短文ではあるが毎日の出来事や気づき等を書き、情報を共有している。また、介護計画の見直し時にはケース記録や24時間生活変化シートを活用し参考にしている。	
			(外部評価)		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	アセスメントに基づき三ヶ月の見直し介護計画を作成しているが、ほとんど状態や状況の変わらない利用者のプランは似たりよったりと変化がみられず同じようなサービス内容になってしまっている。	
			(外部評価)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	地区や民生委員の方に参加していただきながら運営推進会議を行い、話を聞いていただく機会を設け、地域のイベントや交流できる場を提案してもらう等、繋がりが持てるよう支援している。	
			(外部評価)		

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) ご本人やご家族が希望するかかりつけ医で受診を行っている。受診時はご家族に対応していただいているが、都合がつかない時や緊急時には職員が対応している。また、かかりつけ医への報告や相談等を行い、連携を図っている。</p> <p>(外部評価) かかりつけ医とは、看護師の資格を持つ職員がパイプ役となり支援されている。協力歯科医が3ヶ月に1度来られ、口腔ケアの指導もある。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 介護職員は、日常の関わりのなかで気づいたことや情報を看護職員へ相談している。また、看護職員を配置しており、常に利用者の健康状態や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。母体特養の看護職員も週に一度の割合で来里し、利用者の状態把握に努めるなど、体制を整えている。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>(自己評価) 入院時には本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、職員が見舞いに行き、安心とストレス軽減に向けて支援している。ご家族や病院関係者との退院へ向けての話し合いの場や情報交換、相談を行っている。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 重度化に伴う意思確認書の作成、説明を行い、同意をもらっている。重度化し医療行為が必要となった際には、ホームでは対応できないため、ご家族へ説明し、理解と納得をいただき、他施設事業所や病院等へ協力依頼を行っている。</p> <p>(外部評価) 重度化しても、できるだけ口から食べることができるような支援に努めておられるが、環境面の制限等もあり、ご家族と話し合い、入院や施設入所となる場合がある。さらに、終末期のあり方については、利用者やご家族の希望等もうかがいながら対応できるよう、事業所の環境整備をすすめていかれてはどうか。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 年に一回、消防署の協力を得て行われる母体特養での救急救命基礎講習に参加したり、南予地区研修会や職員会議での勉強会を行っている。突発的に発生する事故や急変時には、慌てることが多く、日頃からの訓練や心構え、マニュアルを周知する必要がある。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 日中と夜間の火災を想定しての避難訓練を年二回実施している。また、地震や津波を想定した避難訓練も実施。実際に火災通報装置を使用しての訓練を行い、愛南消防署に避難状況を見ていただき、意見や指導をしていただいた。 (外部評価) 避難訓練の際には、地域の方にも参加いただき、利用者の避難誘導や担架・シーツを使用して避難させる訓練が行われた。地域の消防団員の口添えで、近所の消防団員の方に参加していただいた。津波発生時には、近くの高台にある観自在寺に避難するようになっている。	大きな川の近くという立地条件も踏まえて、水害や津波等を想定した避難訓練を繰り返し実施し、課題解決に取り組まれてほしい。今後は、備蓄の整備も検討されていた。さらに、利用者や職員の安全安心に向けた取り組みを重ねていかれてほしい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 職員会議(身体拘束高齢者虐待防止)のなかで職員の意識向上を図り、利用者の自尊心やプライバシーを損なわない言葉かけや対応を心掛けているが、時として不適切ケアと思われることもあるため、その都度振り返り反省し、話し合いをもっている。 (外部評価) 前回の外部評価実施後に利用者の呼び方について話し合い、言葉がけで気になることがあれば、職員同士が注意し合い取り組まれている。利用者に対する言葉かけは、方言等、利用者の認識しやすい表現を用いておられる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活のなかで利用者の思いや希望を汲み取り、できる範囲で応えられるよう支援している。些細なことでも声をかけて利用者が自己決定できるよう働きかけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ホーム周辺の散歩やドライブ等、利用者一人ひとりの状態や思いに配慮しながら対応している。畑の作物が気になる利用者に声をかけ、一緒に手伝ってもらったり、洗濯物たたみや野菜の下ごしらえを手伝っていただいている。また、好きな時代劇や歌番組を見て楽しんだり自室で休んだり、本人の希望に沿った支援を行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ご本人の好みに合わせてご家族が季節ごとに持参されている。外出時やお出かけするときは好みの服を選択してもらい、愛用のサングラスをかけたり、スカーフを巻く等、おしゃれに気を遣っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 畑の野菜と一緒に収穫したり、野菜の下ごしらえ、食事の配膳準備のお手伝いをしている。利用者の嚥下機能に合わせた食事形態の工夫や、自力摂取の声かけをすることで美味しく食べられるよう支援している。	
			(外部評価) 事業所裏の畑の野菜を利用者と収穫したり、一緒に食材の買い出しに出かけて、野菜を選んでもらう等して利用者が食事一連の流れにかかわることができるよう支援されている。献立は、法人の管理栄養士が立てた献立を参考にしており、ご家族から野菜をいただいた時や、利用者から希望があれば変更されている。調査訪問時、職員が、「おかわりありますよ」と声をかけるとスイカをおかわりする利用者がおられた。食が進まない利用者が、パンが好きだとわかり、朝食をパンに代えたことで食事がすすむようになったケースがある。又、ヨーグルトが苦手な方にはプリン、牛乳が苦手な方にはヤクルトに替えて好みにも応じておられる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 母体特養の管理栄養士が献立表を作成、その献立を基に買い物や食事作りを行っている。利用者の状態に応じて柔らかくしたり、刻んだり、ミキサーにしたり摂取しやすいよう工夫している。また、入浴後やおやつ時には、ポカリスエットで水分補給し、常に食事摂取量や水分量を確認している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアの声かけを行い、利用者の状態に応じて見守ったり、用具を準備したり介助を行っている。うがいができず、飲み込む利用者には歯磨きティッシュを使用し、口腔内を清潔にしている。また、協力医療機関の歯科医師や歯科衛生士の指導や助言をいただいている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を活用し、尿意の訴えない利用者は声かけし、時間を見計らい誘導し、トイレで気持ちよく排泄できるよう支援している。利用者の状態、機能に合わせ、できるだけ日中はトイレで排泄を促し、夜間はポータブルトイレを使用する等している。	
			(外部評価) 日中はパットを、夜間はおむつを使用していた利用者について、夜間もパットで対応できるのではとの職員の気付きから支援を行い、状態が改善しているようなケースがある。夜間は、トイレから遠い居室の方は、ポータブルトイレを使用されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食事やおやつに繊維質の多い食材や乳製品(自家製ヨーグルト)を取り入れている。また、リハビリ体操やホーム周辺の散歩等で身体を動かし、こまめな水分補給や朝食後のトイレの習慣をつける等工夫しているが、排便のコントロールが難しい利用者もおられる。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴前にはバイタル測定し、体調を把握し日中の様子を観察したうえでご本人に確認してから入浴していただいている。利用者の健康状態に合わせ、入浴回数を調整したり、清拭で清潔保持に努めている。	
			(外部評価) 2日に1回入浴できるよう支援しており、個々の希望に合わせた湯温に気を付けておられる。毎日入浴したいという希望にも応じて支援されている。車いすを使用する方には、浴槽の中に踏み台を入れ、湯船の中でも姿勢を安定させて温まれるよう工夫されている。入浴剤を入れて、草津節を歌う等、温泉気分を味わえるような工夫もされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者一人ひとりの状態を考慮し、日中の活動を促したり、自室で休息したりしている。夜間は希望により歌番組や時代劇等、好きな番組を見て過ごしていただいている。室温や寝具類の調節で快適にゆっくりと休めるよう配慮している。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬の処方箋や体重の変化等、利用者毎に整理しファイルに綴じ、職員が内容を把握できるようにしている。服薬時は、名前を呼んで顔を確認してから本人に手渡したり口元まで介助するなど、状態に応じて支援している。看護職員と医療機関との連携も図れている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 食事の下ごしらえや洗濯物たたみ、新聞折り、畑仕事等、経験やできる力を活かせるような場面作りを支援している。また、朝食時、パンが大好きな利用者に提供したり、自室で休んでいるときは好きな歌を聴き、気分転換できるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ホーム周辺の散歩やドライブ、食材の買い出しに付き添っていただいている。桜のお花見や鯉のぼり、季節の花見物にでかけ、季節感を味わっていただいている。重度化した利用者についてはなかなか外出支援できていないが、受診時にご家族と一緒に近くの山や自宅までドライブしたり協力していただいている。	
			(外部評価) 事業所裏の畑で草引きや収穫したり、又、収穫の様子を見たりされている。町内で展示する雛人形を見に行ったり、5月には小学校へ五月人形を見に行ったり、こいのぼりを見に行かれた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご本人が所持している利用者はおらず、外出先でも財布を所持することがない。(参拝のためお賽銭程度)今後の支援が必要である。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者の希望により職員がダイヤルして直接話したり、ご家族や知人から掛かってきた際にも、ご本人と通話していただいている。遠方におられるご家族へ職員が近況報告と一緒に写真を送ったりして、とても喜ばれていた。また、ご家族からも手紙や写真が送ってこられ自室に飾っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 民家改修のホームであるため、トイレや食堂、居間等、居住空間が狭いが、ご家族からは「住んでいた家と良く似ています。」と言われることもあり、利用者も安心感があるように玄関や居間には季節に合った飾り付けやお花を生け、楽しんでいただいている。	
			(外部評価) 玄関には、地域の方から頂いた色紙や利用者の願いごとを書いた七夕飾りを飾っておられた。玄関先にはテーブルやいすを配置しており、外に出て過ごすこともできるようになっている。調査訪問時は、梅雨の晴れ間で、戸を開けはなし、自然の風を採り入れていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 居間を共用の場とし、利用者同士の交流に役立てている。また自室を利用し、気ままに過ごしていただけるよう配慮している。	
			(外部評価)	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ご家族からのプレゼントの絵やぬいぐるみ写真等を飾ったり、使い慣れたスタンド鏡や時計を置き、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
			(外部評価) 利用者は、日中、居間で過ごすことが多いようだが、昼食後は居室でベッドに横になったり、窓から畑の様子を見ながら過ごす方もいる。居室のベッドで過ごす時間の長い方は、ご家族がカセットテープを持って来てくれており、お好きな歌を聞きながら過ごされている。ご主人と一緒に写っている写真や職員がプレゼントした手作りのタペストリーを飾っている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 古い民家を改修した造りのため、廊下やトイレ等が狭く、段差のある箇所もあるが、歩行器や手すりを使用し、手引き歩行を行ったり、リハビリにもなっている。できる機能を活かし安全に配慮しながら支援している。	
			(外部評価)	